

在宅で最期まで暮らそう 自宅での看取り

市在宅医療・介護連携部 ☎(25)1182

現在の日本では、ほとんどのかたが病院で亡くなっていますが、昔は自宅で最期を迎えることは、ごく自然なことでした。

病院のベッドの上ではなく、最期は住み慣れた自宅で過ごすため、在宅医療を選択することも可能です。

最期のときにどうするか、患者本人、家族、かかりつけ医で意思統一をしておきましょう

在宅医療を進めていく上で、最期のときをどう迎えるかについては、あらかじめ患者本人と家族の間で共通の認識を持つておくことが大切です。

末期に急変した場合どうするか、どこまでの治療を希望するのか、本人、家族が納得できるプロセスをかかりつけ医をはじめとした在宅医療のスタッフなどと普段から相談しておきましょう。



自宅での看取りを希望したいがどうすればいいの？

かかりつけ医や訪問看護師、担当ケアマネジャー、地域包括支援センター (☎25) 1182) に相談しましょう。

看取りのときを迎えたら…

亡くなる直前の兆候

- ・声をかけても目を覚ますことが少なくなります。
- ・意識がなくなると、のどもとでゴロゴロという音がします。(とても苦しそうに聞こえますが、本人は苦しさを感じていません)
- ・呼吸のリズムが不規則になります。(呼吸が弱くなり、10～30秒ほど呼吸が止まったり、肩や顎を使い、口をパクパクさせて浅い呼吸になります)
- ・手足が冷たくなります。

臨終のときに

臨終の瞬間にかかりつけ医が立ち会えば理想的ですが、一般的には呼吸停止した後に連絡を受けて訪問することがほとんどです。継続して診察している病気が原因で亡くなったことが明らかであれば、かかりつけ医がその場に立ち会っていても死亡診断書を発行できます。息を引き取った時刻をメモしておき、かかりつけ医に連絡してください。

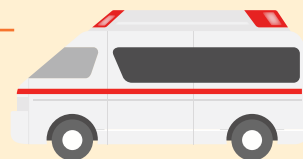
救急車を呼ぶということについて

○苦しそうな状態を見て、救急車を呼ぶと…

病院に運ばれ、延命処置などの積極的治療を希望することになり、本人の意思とは無関係に望まない処置も施されてしまいます。

○気付いたら息を引き取っていたため、救急車を呼ぶと…

すでに息を引き取っていることから、救急隊は警察に連絡します。現場の状況などにより警察官による検視が行われることもあり、家族が事情聴取されるなど、厳かな看取りが一変します。



まずは、慌てずにかかりつけ医、訪問看護師に連絡しましょう。

市民公開講座の お知らせ

- 【とき】 2月8日(金) 午後7時～8時30分
- 【ところ】 保健福祉センターひだまり2階・ひだまりホール
- 【内容】 講演「医療・介護連携・そして地域へ～元気高齢者を産み出す～」
- 【講師】 三重県在宅医療介護連携アドバイザー 櫃本 真幸 氏
- 【申込先】 健康福祉課地域包括支援センター (☎25)1182)

